

実施日：令和元年9月18日  
場所：京都府大山崎町、長岡京市  
案内人：水越 真次

当日は18名の参加でまだ暑さは残るものの、好天に恵まれて大山崎町の史跡を周遊しました。

大山崎町は、奈良時代以降都への交通の要衝として発展し、鎌倉・室町時代には荏胡麻油生産者である神人たちの活躍により経済力を持ち、活気に満ちた自治都市となります。さらに戦国時代末期には「天下分け目の天王山」で有名な「天正山崎合戦」が行われた地としても知られています。また幕末には禁門の変の舞台ともなりました。大山崎には数々の史跡が当時の面影をとどめています。

### 1、離宮八幡宮

本邦製油発祥地と伝わります。平安時代の末に当地で始まった荏胡麻油生産が活発化すると、鎌倉時代には油座が結成され、神社は座の会所となり大いに繁栄しました。室町時代には西は九州北部から東は美濃地方まで独占販売するほどになりました。大山崎は幕府から自治権を認められ自治都市として独自の発展を遂げました。八幡宮は言わば油座のシンボルであったのです。

しかしながら幕末の禁門の変で、多くの建物が焼失し、兵火を免れ現存する建造物は「惣門」「東門」のみとなっております。また、明治に東海道本線開通時に社地の大半が用地とされたため、神領が大幅に縮小されました。現在の社殿は昭和の初期に再建されています。

現在でも離宮八幡宮は油の神様として、日本全国の製油会社や油販売会社の方々をはじめ多くの方に親しまれています。



### 2、関大明神

交通の要衝として「山崎関」が置かれていたことに由来します。大阪府と京都府の境界を示す標識が立っています。



### 3、山崎宗鑑碑

天王山登山口に霊泉連歌講跡碑と山崎宗鑑句碑が立っています。

山崎宗鑑は室町時代の武士で出家した後、宗鑑と名乗り、大山崎に隠棲しました。大山崎油神人の繁栄や惣中や侍衆の支えによって連歌講の中心人物になり、この付近にあったとされる冷（霊）泉庵で連歌の会を開いたり、俳句の指導をしていたとされています。俳諧の創始者として知られています。

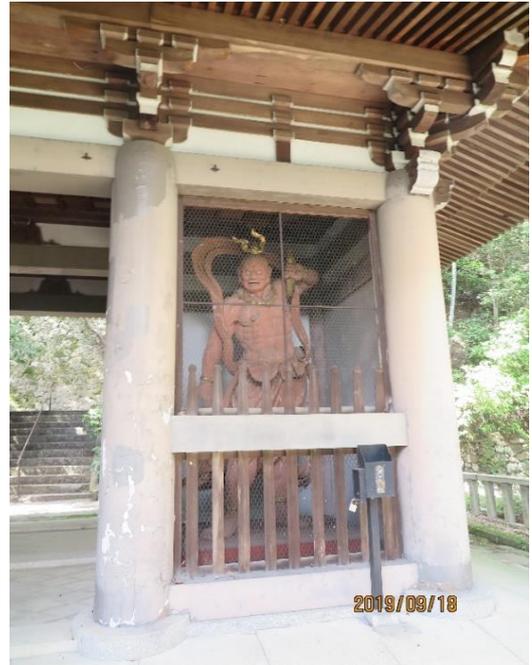


### 4、宝積寺

寺伝では聖武天皇の勅命を受けた行基菩薩が建立したと伝えられる真言宗の寺院です。

建造物では豊臣秀吉が一夜で建てたと伝えられる「一夜の塔」と呼ばれる三重の塔、美術工芸品では本堂内安置の十一面観音菩薩立像、仁王門の金剛力士像、及び収蔵庫に安置される閻魔王像等が重要文化財に指定されています。特に閻魔王像は迫力満点です。





#### 5、大山崎山荘美術館（今回は入館せず）から竹林の小径

大山崎山荘美術館は実業家加賀正太郎が昭和時代初期に建物の他、庭園や道路、家具、調度品なども含めて自ら設計、デザインして建てた英国風の山荘の建物を復元整備し美術館として開館したものだ。今回は時間の都合から入館せず、外側からの眺めのみとしました。

山崎聖天までの途中の竹林の小径は今年の台風の影響が色濃く残っていました。



#### 6、山崎聖天（観音寺）

江戸時代の初期、木喰以空上人が中興したとされます。本尊の十一面観音菩薩よりも歓喜天への信仰によって、「山崎の聖天さん」として知られるようになり、江戸時代の観音寺は大いに賑わいます。しかし江戸幕府末の禁門の変の際、戦火に巻き込まれ、本尊の十一面観音菩薩と歓喜天以外は焼失してしまいました。明治時代に入り現在の建物が順次再建されました。現在は桜と紅葉の名所としても有名で、春と秋のシーズンには多くの行楽客が訪れます。



## 7. 瓦窯跡

ここで製作された瓦は平安宮朝堂院をはじめ、嵯峨院、河陽離宮に供給されました。2006年に重要性が考慮され国の史跡に指定されています。

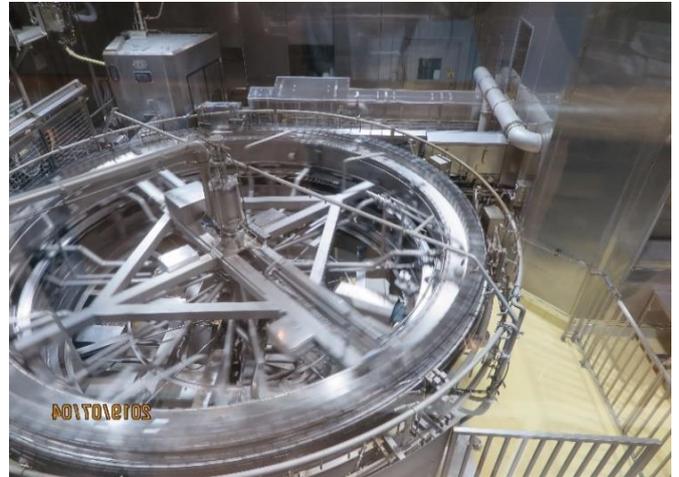


## 8. 大山崎歴史資料館

大山崎の文化と歴史について紹介している施設です。常設展示は、古代、中世、近世の各コーナーに分かれ、古代では交通の要衝としての町の繁栄、中世では油生産と神人の活躍、近世では、山崎合戦と神領支配といった展示をしています。特に千利休が建てたといわれる茶室待庵の実物大模型は必見の価値があります。



9、サントリー京都ブルワリー  
オプションのため、参加者は9名。ビールの製造工程の見学と試飲を行いました。



## 10、最後に

少し暑さが残っていましたが、好天に恵まれたのは幸いでした。少し坂道があったので、歩くのが厳しかったかも知れません。あと、当初計画時にはサントリーの山崎蒸留所を予定しておりましたが、入館料などからビール工場に変更しました。事前の確認をもう少ししておくべきであったと考えます。

以上